

## 「第3回 今後の土砂災害対策を考える会」議事概要

1. 日 時：平成23年7月11日（月）15:00～17:00
2. 場 所：中央合同庁舎2号館1階共用会議室3A, 3B
3. 出席者：丸井座長、小杉委員、小林委員、山田委員

### [主な意見]

#### 【今後の土砂災害対策の方向性（案）】

- ・ 土砂災害に対してはハード対策がかなり効果的であり、ハード対策を行うことでソフト対策も行いやすくなる面がある。ハード対策かソフト対策かの二者択一ではなく、ハード対策を基本としてソフト対策も推進する考え方で行うべきである。
- ・ 巨大な災害に対してハード対策で完全に対応するのは不可能であり、いかに自身の安全を図るか、また避難をした後のフォローはどうするか、といったソフト面での対策が必要。ハード対策の限界も説明すべきである。
- ・ それに関連して、土砂災害にも様々な現象があり、個別の現象の差異を踏まえた上でハード対策とソフト対策を適切に組み合わせて整理する必要がある。
- ・ 住民への情報提供については、その地域の地盤がどうなっているか等、地域にとって興味を持ってもらう情報の見せ方について工夫が必要。（例えば土地の歴史や砂防の歴史について伝えていく等。）
- ・ 深層崩壊だけでなく、同時多発的な表層崩壊や、複合的な土砂移動現象についてもどのように対処するのか今後検討が必要。
- ・ 監視・観測については、大学や行政、研究機関等が密接に連携し、その目的や意義を明確にするとともに、蓄積したデータを有効に活用していくことが重要。また、崩壊や土石流の規模を推定する意味で、地表面だけでなく地中の情報についても把握する必要がある。
- ・ 砂防事業を実施している場所は水源地域にあたることが多く、災害発生時に、緊急的に砂防施設や地すべり対策施設からの水を活用していく場面が考えられ、水質や流量をチェックしておくことも必要ではないか。
- ・ 「選択と集中」を進めるにあたっては、地域の特性や災害の実態をしっかりと把握することが重要。
- ・ 土砂災害の事前の予知等の情報が迅速かつ正確に地域に伝わる仕組みづくりを期待している。